

こども教育心理専攻1回生の学生ボランティア奮闘記

寺 田 博 幸・山 本 早 苗

1. はじめに

小学校教員を目指すこども教育心理専攻の半数を超える学生が、2回生のインターンシップ、3回生の教育実習を前に、学生ボランティアに参加し、半期が過ぎようとしている。授業の合間をぬって学校現場に出かけ、子ども達と直接かかわったりしながら、学んでいるのである。

本大学では、多くの先輩たちもすでに学生ボランティアに参加しているが、いずれの学生も大学の講義では味わうことのできないことを学んでいる。そこには、今まで見たことのない子ども達と教職員のかかわりがあり、それを体で感じながら、先生方の指導の様子を直接吸収するよい機会となっている。

1回生の学生ボランティアには、先輩同様の行動とはいかないかもしれないが、吸収しようとする意欲は、決して先輩に引けをとるものではない。ピカピカの1回生だからこそ、できることもあるだろう。学校現場において体で感じながら、問題意識を見出し、その問題の解決のため大学の講義に真剣味を増して耳を傾けることにもなるであろう。先生になるという自覚を確かにすることにもつながり、さらに学び続けてくれることを願いながら、今後の学生ボランティア活動を見守っているところである。

2. 学生ボランティア活動に参加している 学生の声から

学生ボランティア活動を通して、学んでいること、感じていることの一部ではあるが、その声を紹介してみたい。

- ・ 教員の仕事については、どのようなことが具体的に行われているのかをボランティアに行くまでは理解していませんでした。5月からボランティアに行かせていただき、子ども達と交流していく中で、私たち学生には当たり前に思っていることが子どもには理解できないということを知りました。

そのため、授業中に説明するときには、子ども達が理解しやすいように言葉を選んで話さないといけないので、はじめは苦劳しましたが、子ども達の理解の仕方を学ぶことができたと思っています。

また、実際の授業に参加させていただき、教師の授業の進め方や工夫について毎回学ぶことができ、勉強になることばかりです。

K小学校には、難聴学級がありますが、同学年だけの交流にとどまらず、低学年の児童とも交流する機会をつくっていること、校舎内の学級配置に関しても学年ごとにペアを作るシステムになっていることから、学年を問わずに児童との交流を大切にしていることが

伝わってきます。

先生方の仕事の量が多く大変だと思うのですが、どの先生方も生き生きとされている様子を見ることができます。K 小学校の雰囲気がよくて、児童も教職員も生き生きしている学校だなと感じています。

(総合社会 3 回生 A・Y)

- ・ K 小学校は、学級の児童数も少なくて全員が仲良く学び合っています。子ども達と先生方の距離が近く、先生が子ども一人ひとりのよいところを把握されています。

ですから、子どもに注意をするときでも、決してその子を否定することなく、「何がいけないことなのか、どうすればよかったのか」を考えさせ、子ども自身が“気づき”をもてるようにされています。よいところは心からほめ、正すべきところは愛情をもって指導されています。そのような姿勢が、K 小学校にはあります。一人ひとりを伸ばすには、このような愛情を感じさせる指導が大切なことだと日々、学ばせてもらっています。

K 小学校は、学力にも力を入れています。例えば、学年に応じて家庭学習の時間を設定していますが、そこでチャレンジできたことなどを児童集会などで発表し合ったりして、学校の子ども達が学習意欲を高めています。子どもがお互いを認め合うとともに、よい刺激が双方向に働いているように感じています。

学校でしか学べないことを K 小学校からたくさん吸収したいと思っています。

(総合社会 3 回生 K・N)

- ・ 自分が小学生の頃に先生を見ていたときと違う視点で見ることができ、どのように子ども達と接すればよいのかを学ぶことができました。

このように、現場に触れることで、教師になるという自覚を高めることにもつながっているように思います。子ども達と接していると、彼らのパワーの大きさを実感しているところです。

(こども教育心理専攻 1 回生 M・K)

- ・ 分らないところで手を挙げる子どもに、すぐに答えを教えるのではなく、子ども自ら答えを出せるような支援が大切であることを学びました。また、どんな仕事をするにしても、このことが自分の将来(教員としての)将来に生きてくるであろうと思うと、たいへんやりがいがあるし、たまに辛いと思うことでも前向きに学びながら、もっと楽しくかわっていかうと思っています。



(こども教育心理専攻 1 回生)

- ・ 放課後、子ども達と遊ぶことで、普段の授業でのコミュニケーションがとりやすくなっていることを実感しています。担任の先生は、自分が想像していた以上にやることが多いことや、一人ひとりに目配りをするのがどれだけ大切なこととかを学ぶことができました。



(こども教育心理専攻 1 回生 Y・Y)

- ・ 今回の学生ボランティア活動をすることによって、活動前と比べて何十倍もの経験を積むことができ、とても嬉しいです。

行く度に、先生からいろいろな教え方を見ることができ、それが学級のカラーを作っているように思いました。私も先生になったとき、今学んでいることを生かしながら責任をもって教えていきたいと思っています。

1 年生から 6 年生の各学年に応じた指導に必要性を強く感じていますので、これからも、学生ボランティア活動を継続しながら自分の知識を増やしていこうと思っています。



(こども教育心理専攻 1 回生 E・K)

- ・ 子ども達の発想がとても豊かなのには驚きます。子ども達から学ぶことが多くて勉強になります。また、先生のはめ方叱り方を見ていると、メリハリがあり、私も先生になりたいという気持ちが一層のこと大きくなってきています。

(こども教育心理専攻 1 回生 M・S)

- ・ 子ども達は、とても純粋で素直だなと思います。それぞれの学級ごとに違った雰囲気があり、新鮮さを感じながら、その空気が少しずつ分かるようになってきました。いろいろな子ども達が学級で学び合っている姿を見て、難しく思うこともあるけれど、今学んでいることが将来に役立つのだと心得て頑張りたいと思っています。

(こども教育心理専攻 1 回生 Y・M)

- ・ N 小学校の特別支援学級の担任の先生から、特別支援学級児童の生活習慣や行動について、児童理解という視点からお話を聞かせていただき、たいへん勉強になることばかりでした。どのようにかわっていけばいいのか、どのような環境作りがよいのかなど、大切に役に立つことばかりです。

学校全体を見てみると、高学年の児童が低学年児童を助けている姿もありました。低学年児童は、とにかく元気いっぱいでした。どの学年の子ども達も素直で元気な子ども達ばかりだなと感じています。授業に入らせていただいている学級児童と休み時間に外で遊ぶのがとても楽しいです。

算数の授業では、計算するのに少し時間が必要な子ども達に対して、先生はその子を見守りできるのを待っておられます。授業を進める上で、先生の工夫が伝わってきます。今は、全てが勉強です。



(こども教育心理専攻 1 回生 K・U)

上記の学生の声に耳を傾けると、学生ボランティア活動を通して、問題意識をもち始めていることが伝わってくる。これを機に大学の講義において主体的に学んでくれることを心より願っている。

さて、現場の教職員の方々は、本大学 1 回生の学生ボランティア活動をどのように受け止めていただいているのでしょうか。学校を代表する校長先生方にお話をお聞きする機会を得ることができた。

3. 学校から期待の声が

学生ボランティアとして活動している 1 回生の学生たちに対して、エールを送っていただくような心温まるお話を紹介してみたい。

- ・ 1 回生は、まだ、高校を卒業して間がないときである。子ども達との直接のかかわりから学ぶこと、子ども達と先生のかかわりから見えてくることなどを吸収し、学んでくれることを願っている。

その経験がこれからのインターシップや教育実習に生かされたり、教員になったときにこの経験が生きてくるに違いない。1 回生から学校現場で学ぶことに大きな意義がある。

楽しいことばかりでなく、子ども達とのかかわりにおいて、悩むこと、疑問に思うこともきっとあるであろう。そんな場面に出会ったときこそ、問題意識が確かになり、その解決のため現場の先生に質問をすることがあってよいし、また、大学の講義にその答えを求めることもできる。解決を見出すための意欲も高まっていくであろうし、講義を聴く姿勢が少しでも変わってくれることを期待したい。

- ・ 1 回生からのボランティア活動は、緊張感もあり不安を覚えていることであろう。でも、子ども達の中に入って、一緒に遊んだり、活動したりすることによって、子ども理解ができ、信頼関係を築いていくこともできる。焦ることなく、生涯にわたって学び続ける気持ちをもつことが大切なことである。学校は、全教職員が知恵を出し合い、学校を取り巻く環境を生かした教育活動を進めている。学力を付けることはもちろんのこと、知育・徳育・体育のバランスのとれた子どもに育てていくことに保護者・地域の方々との連携も図ってきている。そのような様子も現場で学んでくれることを願っている。

以上のように、どの校長先生も学生ボランティアに熱い期待感をもって見守ってくださっていることに、あらためて感謝の気持ちを強くする次第である。

4. 今後への展望

学生ボランティア活動からスタートした実地教育が、2 回生のインターンシップ、そして 3 回生の教育実習へとつながっていく。2 回生のインターンシップにおいては、ほぼ 1 年間を通した取組を目指しており、教員としての心構え

を芽生えさせ、羽ばたかせるときでもある。学校や家庭、地域は、どんな先生を願っているのか、子どもを理解するとはどういうことか。大学の講義においても学ぶことになるが、体で感じることでできる学校現場の空気に触れてこそ、大学での学びをより確かなものにしていく。実感を伴う実地教育が、きっと、教員を目指す学生の心に働きかけ、意識を高めてくれるに違いない。教員としてだけでなく社会人として求められる“他者と適切にかかわり、コミュニケーション能力を身に付ける”ためにも、早いようであるが、1回生の学生ボランティアに参加することによって実りのある資質能力を養っていくことになるに違いない。

素直で明るい性格の本大学生が、ますます活躍してくれることを心より願っている。

まとめに、この紙面をお借りして、学生ボランティア活動に対して、参加させていただいている学校の校長先生はじめ教職員の皆様、並びにご助言をいただいた本学教職員の皆様に感謝の意を表すとともに、本学の建学精神を身に付けた学生を育てていくことを一層誓うものである。

(学生のコメントと写真は一致するものではありません。ご了承ください。)